

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 029

今回は加里（カリ）の話

りん酸同様に海外依存度が高いカリが高騰しています。今後ますます無駄のない施用が求められることが予想されます。カリは窒素以上に吸収される栄養素として知られており、欠乏すると

- ・子実、根部の登熟不足 → 玉伸び不足、収量低下（乾燥下での減収大）
- ・葉の先端、周辺部の黄化～壊死症状 → 病気の誘発と蔓延助長などが起こるため、適切に施用する必要があります。

一方、施設園芸、畜糞堆肥連用圃場では土壌への蓄積傾向が見られます。過剰に溜まったカリは時には過剰害として現れます。

- ・苦土の吸収阻害 → 苦土欠乏の発生（下葉の黄化、玉伸び不足）
- ・食味の低下 → 果菜・果樹では糖度低下、酸味が強くなる
- ・土壌のアルカリ化 → 微量元素欠乏の発生、ひどいと発芽不良「過ぎたるは及ばざるがごとし」はカリも同様のようです。

カリは減肥も考える〇、微量元素同時施用が◎

カリは土壌診断の「交換性カリ」の値を基に、蓄積していれば基肥の減肥をお薦めします。理由は比較的吸収されやすく、追肥施用で対応可であるからです。注意点は、カリの吸収は日頃からの土づくり＝根の活力によって大きく圃場差が出ることです。カリは根の張る条件（柔らかさ、排水性の良さ）が整っていれば欠乏が出にくいことから、土づくりを兼ねて緑肥の導入、適正量の完熟堆肥施用、貝化石施用を行い、減肥できる土を目指すのが、コスト面・環境面にとっても良いでしょう。

作型や地域性から緑肥や堆肥使用が困難な場合は「基肥の最小施用&追肥での対応」の作戦もご検討ください。

なお、カリは作物吸収後は作物の代謝を支える各酵素や、各器官の活性化に関与しており、「単肥」よりは「微量元素（鉄・マンガン・銅・亜鉛）も同時に与える」とより有効です。微量元素は吸収したカリの働きを一層良くし無駄なく働かせることに役立つからです。

スタッフ通信

弊社スタッフの近況や
つびやきをご紹介します♪

品質技術部の埜村さん

昨年入社し仕事にもだいぶ慣れてきました。各肥料の品質管理にやりがいを感じています。これからも頑張ります！



粒状 ミネラル加里

加里を20%保証しており、同時に各種微量元素、ケイ酸を含有しています。加里不足の圃場のほか、堆肥施用が不十分な地力不足の圃場の土づくり、増強に最適です。